



「岐阜公園物語」①

(明治・大正・昭和初期)

なぜ、板垣退助の銅像や多くの記念碑があるのでしょうか

濃尾平野のどこからでも眺められる標高329メートルの金華山。シヤカシなどの雑木に覆われ、その自然林の麓に広がる岐阜公園。春の桜に始まり、ホテル観賞、イルミネーション、菊花展、金華山の紅葉等。それはまさに四季折々の「市民の憩いの場」です。岐阜公園は、どんな歩みをしながら現在に至ったのでしょうか。



板垣君遭難之図

式が行われたのは、明治21年(1888)11月1日でした。この年の2月から、有志及び消防組協力者の尽力で、迎賓館兼俱樂部、物産陳列場の建設が始まりました。当時の様子、子を岐阜日日新聞は次のように報道しています。

1 「公園」の始まりと板垣事件
この地(厚見郡富茂登村)は、織田信長の時代には居館や武家屋敷があった所ですが、江戸時代以後は荒地・畑地のまま放置されていました。明治10年(1877) 神仏合同の布教施設岐中教院が、ここ現在の



木立の中の三重塔

岐阜公園に建設されました。南は金華山ロープウェイの下付近から北は発掘調査案内所付近に及び、東は山、西は今の用水路の線で囲まれたほどの区域でした。明治15年(1882)、この付近は「丸山公園」として開園しました。そして、この年の4月6日におきたのが「板垣退助暗殺未遂事件」です。この日、百名を超える濃飛自由党主催懇親会が公園内の岐中教院で開かれました。

板垣退助は演説を終えた後、懇親会を途中で退席し玄関に出ましたが、そこで相原尚斐に襲われたのです。板垣は負傷しましたが、「板垣死すとも自由は死せず」という名文句はあまりにも有名です。この公園が本格的に整備され開園

「公園物産陳列場三棟は各々横四間、東西に入り口あり。煉瓦を敷き詰め、俱樂部は北面して玄関に上り、東に向き北に折れ、また東に赴く構造。二個の鍵の手をなして曲折し、待合、上段の間、平間、浴室などあり、御殿風の造り、畳敷は三百畳余り、南方に離れて事務室有り、庭中に庭樹を設け…」
しかし、4、5月までは賑わった公園も、7月には「游客も少なく草生い蛇生する有様」でした。

2. 岐阜市と岐阜公園の誕生
明治22年(1889)7月1日岐阜市が誕生するのですが、この公園を「岐阜公園」と改称しました。しかしその後も利用者はほとんどなく、



明治40年 名和昆虫研究所(左は標本館)



「古城址」の鉄塔と模擬城

6月からは看守人が置かれました。(太平洋戦争が激しくなった昭和18年2月17日、金華山頂の模擬城が焼失。現在の岐阜城は昭和31年(1956)に再建されました。)

3. 大正期の公園整備
大正3年(1914) 岐阜市議会の決議にもとづき、岐阜公園が本格的に整備されることになりました。大正5年(1916) 3月、工費5500円をかけて三重の塔の建設が始まり、翌年に完成しました。材料には長良橋の古材が使用されました。

また大正7年(1918)には、「板垣退助伯遭難記念銅像」が山田永俊らによって、ほぼ現在の場所に建立されました。そして7月21日、板垣夫妻を迎えて盛大に除幕式が行われました。



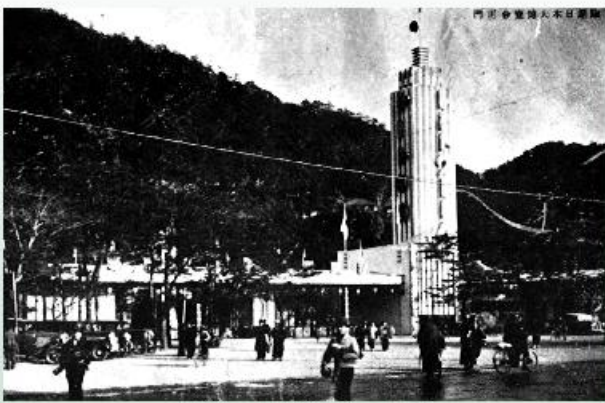
板垣退助の銅像

4. 「躍進日本大博覧会」
昭和11年(1936)、2・26事件がおきた直後の3月〜5月にかけて、岐阜市主催の「躍進日本大博覧会」が、岐阜公園及び長良川畔一帯で開催されました。



観光客、市民等で賑わう公園(昭和初期)

博覧会の主な内容は第一産業本館、第二産業本館、近代科学館、岐阜県及び岐阜市館、国防館、観光館…など、三十数館にのぼる施設でした。
「日本全土の観光産業の一大パノラマを展示する観光館、近代科学の粋を集め威力を実演によって示す近代科学館、公園内三重の塔にて勸修される高野山弘法大師特別開帳…などの公開」
「見よ！堂々三十数館に盛る躍進日本の強調の万華鏡を！」のキャッチフレーズで開催されたこの大博覧会は、まさに満州事変の後の時勢を感じる戦前の博覧会だったのです。(この時「噴水の女神の像」が建立されましたが、昭和17年金属回収で姿



躍進日本大博覧会 正門

を消しました。現在の歴史博物館前の「噴水の女神の像」は戦後建てられたものです。

この文章は、「岐阜市史」「岐阜県史」「岐阜市民のあゆみ」館蔵品図録・絵はがきなどをもとに後藤征夫がまとめました。

岐阜市歴史博物館ボランティア

「お話・岐阜の歴史サークル」

代表 後藤 征夫

<http://bookgeocities.jp/gifurekisi/kekisitop.htm>

TEL 058-231-6726